

会長一年祭祭文

これの祖霊社に静かにお鎮まり下さいます天理教○○分教会初代会長
故△△△△刀自の霊の前に 天理教 分教会長 慎んで申し上げ
ます

久方の空行く月のさやかな光にも 立迷う浮雲の障りがあるように また
春の山に咲き乱れる美わしい梢の花にも吹き荒ぶ嵐の嘆きがある如く い
つまでも明るく健やかに この世でお暮らし頂きたいと家人はもとより一
同心より願っておりましたのに 汝刀自は昨年一月三日齡九十五歳という
長命ながら 逝く水の還らぬ如く 入る月の影消えるが如く はかなくも
来世への旅路を発たれてしまいました 夜空にかゝる月影を見ては あり
し日の笑顔を偲び 露に花咲く勿忘草のように忘れる日は無く 早や一年
は夢の間に過ぎて 未だ深い淋しさが心に残るまに／＼一年祭をこのよう
につとめさせて頂く日と相成りました 御前に後任会長○○氏 又孫の
○○氏○○氏を始め一同こゝに寄り集い 改めてあの日この時をそれぞれ
に語り合い共に喜び共に涙した昔日を次から次へと思ひ起こしております
顧みますれば汝刀自は 昭和二十年○月○日△△△△姉に案内され 初め
て上級○○分教会に参拝されましたが 二十六年七月修養科を終えると間
もなく△△△△氏の身上願いから上級○○の朝夕勤に日参する心定めをさ
れました 二十六年十月○日以来文字通り元旦から大晦日まで 豪雨の日
も暴風の中も酷暑の夏も厳寒の冬も嫌わず続けられ △△△△氏亡き後も
その日参が実行され 遂に四十余年の長きに及びました その間汝刀自の
自動車事故による入院中に新築された○○家には不釣り合いな程大きな神
床及び上段が設けられました 毎日汝刀自の眼に神棚が見えない時はな
く 喜びにつけ悲しみにつけ四六時中神様と対面 否応なく心の成人が促
され 三十年○月布教所開設 四十年○月二十六日には榮ある○○分教会
の設立となり 汝刀自は末代に光る初代会長を拝命されました 同時に人
一倍弱かった半病人の体が 人一倍長い人生を楽しまれ 忽然として何の
苦しみも無く現世を去られました かくて今尚汝刀自を偲び懐かしむ心
いと深きまに／＼ かくの如く一同御前に馳せ参じて伏し拝む様を心安ら
かに御覧下され 今後は更に○○家はもとより これの教会を通してその
周辺に繰り広げられるたすけ一条の先々にも尚一層のお力添えを賜り 思
召し下さる陽気ぐらしの輪が次々と拡がって参りますようお導きの程を
一同と共に慎んで申し上げます